

Reader's VIEW

2016 Vol.3 特集「成功例・失敗例から学ぶ 学力向上のツボ」へのご意見

このコーナーでは、編集部へ寄せられた読者の先生方からのご意見をご紹介します。

*『VIEW21』教育委員会版のバックナンバーは「ベネッセ教育総合研究所」ウェブサイト (<http://berd.benesse.jp/>) でご覧いただけます。

◎第1特集で国立教育政策研究所・小久保智史課長の「誤答の傾向にこそ指導改善のヒントがある」という話に納得しました。私も算数の授業でノートに途中の計算式も書くよう指導し、プロセスを見える化して、つまづきポイントが分かるようにしています。同様に、クラスの傾向が見えてくると、指導上の課題も見えてきます。要は、それを教員が受け入れられるかどうかだと思います。(兵庫県)

◎第1特集で大阪大学の志水宏吉教授が、納得の行くビジョンを示し、教員のベクトルをそろえることの重要性を話されていました。教員のベクトルをそろえるのが難しい場合もありますが、教授が言われた「重要な課題に絞って取り組み、まず何か1つ成果を出して、その波及効果をねらうという一点突破」の方法が大変参考になりました。(東京都)

◎第1特集の「現場の先生が語る 学力向上策の失敗例と教訓」を、大変興味深く読みました。成功例は様々に紹介されていますが、その通りに実践したつもりでうまくいかないことが多々あります。失敗例こそが現場で留意すべきことの大切さを教えてくれるような気がします。(愛媛県)

◎第1特集の秋田県八峰町教育委員会では、千葉良一教育長のビジョンと行動力に深い感銘を受けました。予算や人材確保、環境整備などの責任は持ち、学校経営は管理職に任せるというスタンスは、学校の意欲と責任感の高まりにつながるでしょうし、教育長自らが各施策を保護者や教員に浸透させていく熱意には、頭が下がりました。(青森県)

◎第1特集で大阪府茨木市教育委員会がビジョンを策定する際、「見えない学力」を「見える化」したことは重要です。目標数値を立てて実行、達成することで、子どもたちにも成長を実感してもらいたいと考えます。また、ミドルリーダーからビジョンを浸透させる仕掛けも、素早く現場に理解してもらうには有効な手法だと思いました。(東京都)

◎第2特集のように、独自の学力調査を活用した授業改善のPDCAサイクルは、本県でも春の文部科学省「全国学力・学習状況調査」、秋の県独自調査を1つのサイクルにして回しています。また、静岡県吉田町の取り組みでは、公設学習塾や家庭学習の手引き、施策を確実にを行うためのチェックシートが、とても参考になりました。(山口県)

◎PDCAサイクルやグランドデザインは、作成・報告しなければならぬものとして、現場ではやらされ感があったため、年度の初めと終わりにチェックする程度で終わっていました。しかし、これらを授業改善の手法として主体的に運用すれば、大きな効果が得られることを、第2特集の青森県むつ市の事例から知ることができました。(京都府)

◎各校では国・県・市などの様々な学力調査が実施されています。調査結果を授業改善に生かすことが本来の目的ですが、結果に一喜一憂している場合もあります。その点、第2特集の青森県むつ市立田名部中学校ブロックの、小・中の担当者が知恵を出し合い、同じ方向性で子どもを指導していく取り組みは、とても有効だと思いました。(岡山県)

◎「VIEW'S REPORT」では新潟県教育委員会が、「数合わせではなく、活性化のための再編計画」を将来構想の軸にしている点に関心を持ちました。少子化により、今後は「目的をもって高校に進学する」生徒が増えていくと思います。地域のニーズや生徒の実態に即した特色ある教育が、今後、全国で展開されていくことに期待します。(鹿児島県)

◎「5年後の英語教育」で、学校では評価のためのテストを行いがちだが、到達目標に即したテストを実施しなければ、子どもの本当の力を測ることはできないという意見にとっても納得しました。小学校英語の教科化が始まったとき、評価をどのように行うか。そのための準備期間がとても重要であると、改めて認識しました。(東京都)

編集後記

これまででは、近畿や関東など、比較的東京から近場の取材が多かったのですが、Vol.3あたりから北海道や東北、九州、四国など、飛行機を使ったり、ローカル線に長時間揺られたりといった遠方への取材が増えてきました。航空路線や新幹線網が充実し、東京からはどこへ行くにもアクセスが抜群にいいことを実感する一方で、地方では3時間に1本しか来ない電車など、東京とは全く異なる交通事情に戸惑うことも。東京一極集中の現実と課題を改めて認識させられた思いでした。(岡本)

VIEW21 教育委員会版 2016 Vol.4 2017年1月16日発行/通巻第8号

発行人 山崎昌樹
編集人 春名啓紀
発行所 (株)ベネッセコーポレーション
ベネッセ教育総合研究所
印刷製本 凸版印刷(株)
編集協力 (有)ペンダコ
執筆協力 二宮良太、中丸満
撮影協力 荒川潤、ヤマグチイッキ

◎お問い合わせ先
フリーダイヤル 0120-350455
〒700-8686
岡山市北区南方3-7-17